



発行：宗教者9条の会・大分 ●〒877-0012 日田市湊窓1丁目4-25 妙栄寺 TEL 0973-22-2245

# 「宗教者9条の会・大分」が総会と講演会を開催

真宗大谷派安養寺 林正道

コロナ禍のために延期されていた「宗教者9条の会・大分」の2019年度の総会が10月5日（月）、大分市の浄土真宗本願寺派長光寺（大在紀住職）本堂で開かれました。

2006年に発足したこの会は、主に仏教系やキリスト教系の宗教者の任意の個人が、宗派・教派を超えて、個々の思想信条の自由を守りつつ、互いに平和と人権についての学びを深めながら、非戦の願いを実現するための活動を行っています。

佐々木淳二さん（大分メノナイトキリスト教会牧師）の司会で、初めに林正道代表（真宗大谷派安養寺住職）が主催者あいさつ、「モリ・カケ問題や桜を見る会など悪政を続けた安倍首相は、自ら政権を投げ出した。跡を継いだ菅義偉首相は、アベ政治を継承する」と宣言。最初にやったのが、理由も明らかにしないで、6人の日本学術会議の会員の任命を拒否したことだ。これは、思想・信条や宗教の自由をも侵害し、民主主義を破壊するもので、絶対に許すことはできない。9条など平和憲法を守り生かす取組みを強めよう」と訴えました。

中国・朝鮮・日本の  
中国への仏教伝来  
後漢の元壽1（前2年）に伝来。永平年間（58〜75年）、迦葉摩騰らが経典を白馬に背負わせインドから来る。この時代には、中央の貴族や知識階層に熱心な信者がいた。

大分大学名誉教授（東洋史専攻）の神戸輝夫先生が、「中国・朝鮮3国（高句麗・百濟・新羅）・日本の仏教伝来」と題して記念講演を行いました。会場からも質問や意見が出されました。掛橋泰定さん（日蓮宗妙栄寺住職）が、2019（令和元）年度の収支決算書を提案、満場一致で承認されました。

①誕生・伝訳の時代（前漢〜西晋）、②研究・建設の時代（東晋〜南北朝）、③成熟・繁栄の時代（隋〜唐）、④継承・浸透の時代（五代〜明）、⑤俗化・世俗化の時代（清〜現代）。『岩波仏教辞典』

既存の宗教である道教、儒教との関連で発展。漢訳経典などでは道教経典の語句を使用。仏教は「道教」、

報道されない闇  
その前兆を感じ取る学び  
ひとり一人が求める社会  
平和を希求する眼が  
闇を破る

日本国憲法 第9条  
日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。



神戸輝夫先生

仏教者は「道士」などと表記された。仏陀は「聖人」として理解され、仏陀の教え「修多羅」は「経」と訳された。歴代の仏教学の巨匠たちは、仏教経典の読解、教理解釈には、儒教の経典解釈学の方法を継承した。

### 朝鮮3国への伝来

高句麗の仏教の始まりは、372年、前秦の符堅が使者と僧順道を派遣し、佛像と経文を送った。375年、肖門寺を創建し順道を、伊弗蘭寺を創建し阿道を置く。

百濟では、384年、胡僧の摩羅難陀が東晋より来る。翌年、仏寺を都(漢山州)に創建し、僧10人を得度した。阿莘王(392~404年在位)が仏法を崇信し福を求める命令を出す。

新羅では、第19代訥祗王

(417~457年在位)のとき、沙門の墨胡子が高句麗より一善郡に来る。その時梁の使僧元表が衣服、香、経、佛像をもたらした。朝鮮半島では、古代に伝統的な信仰として、「祭店」「鬼鬼神」「祭星」などの祭祀があった。そこに4世紀後半に仏教、道教が入ってくる。特に仏教は統一王朝新羅、高麗の国教となる。だが、李氏朝鮮王朝では仏教信仰は後退させられ、代わって儒教が全面的に奨励されるようになった。

### 日本への仏教伝来

宣化(538)年、百濟の聖明王が佛像、経典を大和の朝廷に献納した。欽明(552)年説もある。大和朝廷の「崇仏論争」も(蘇我氏と物部氏の論争)。在来信仰である神と仏教の関



係。神仏習合の確立。当初は仏教が主、神道が従だった(本地垂迹説、阿弥陀如来が八幡神、大日如来が伊勢大神)。江戸時代に神道優位の思想が出てくる。

16世紀中ごろキリスト教が伝来。秀吉、家康の禁教令。江戸時代には、キリスト教の信仰禁止を徹底するため、どこかの寺の檀家になる寺請制度を確立した。明治時代には神道の優越

性を徹底。その結果として廃仏毀釈。仏教の危機。生き残りの国内、国外(植民地を含む)の布教活動。日露戦争、日中戦争、太平洋戦争と仏教。従軍僧の派遣と非戦、反戦の声を封殺。

戦前の仏教組織の連合は、1912(大正元)年、仏教各宗派懇話会を設立(1916年、仏教連合会と改称)。1938(昭和13)年、財団法人仏教連合会(40年、大日本仏教連合会、41年、大日本仏教会に改称)。1944(昭和19)年、大日本戦時宗教報国会(宗教全体の連絡組織)へ統合。

戦争に反対した仏教徒として、新興仏教青年同盟(妹尾義郎委員長)が1931年4月5日結成。1936年、37年、治安維持法による弾圧で運動は破壊された。

戦争に反対した僧侶としては植木徹誠(1895~1978年、植木等の父)。真宗大谷派。「戦争は集団殺人」「卑怯といわれても生きて帰ってくる」と。

戦争に反対した神主に、林寅治。1943年(48歳)。筑豊の採銅所村の古宮八幡宮の神主。「君たちは絶対に死んではならない。家族のために帰ってきなさい」。この発言で特高の拷問を受けて死亡。

戦後の仏教界、戦争への協力に対する反省。科学者も、子や孫に伝えていかなければ。

### 原稿募集 のお知らせ

『宗教者9条の会  
大分にゆーす』に載  
せる原稿を募集して  
います。

# 半藤一利氏の死を悼む

浄土真宗本願寺派長光寺 大在 紀

半藤一利氏が亡くなられた。

「憲法9条を守るのではなく育てる」を持論とされた。2021年1月12日、自宅で死亡が確認された。

☆ ☆

間をみてしまい、死体の浮いた川の水を吐き出す。焼け跡は焼死体だらけ……。「絶対に神風がふく」「絶対に負けることはない」「絶対……」と信じていた十五歳の少年は二度と「絶対」という言葉を使わないと心に誓う……。絵本の最後で半藤さんは自らの誓いを破る。「戦争だけは絶対にはじめてはいけな」と。

氏は1953年（昭和28年）に入社した文藝春秋新社で、流行作家の坂口安吾の原稿取りをして、坂口から歴史に絶対はないことと歴史を推理する発想を学んだという。続けて『連合艦隊の最後』などで人気を博していた軍事記者の伊藤正徳の担当となり、日本中の戦争体験者の取材に基づいて、無署名ながら「人物太平洋戦争」を連載した。このときに歴史の当事者は嘘をつくことを学び、これらの経験が、「お前は『半藤』ではなく『反動』だ」と言われながらも、後に昭和の軍部を描いた作品を書く素地となったという。

強する会」を主宰して、戦争体験者から話を聞き、1965年に単行本『日本のいちばん長い日―運命の八月十五日』を執筆。営業上の都合から大宅壮一の名前を借りて大宅壮一編集として出版され、単行本で20万部、角川文庫化されてからも25万部が売れた。

2019年に、半藤氏には珍しく絵本『焼けあとのちかい』（大月書店）を刊行している。

「正義ある日本が絶対に勝つ」と大人に信じこまれた少年。戦争になると、おもちゃも新しい服も、白ごはんも、犬も猫も、動物園の象・熊・虎も、どんどんなくなる。疎開で、親や家族と離れ離れになり、敵の軍用機に追いつかれ、爆撃機に空襲されて、火の海の地獄に一人で投げ込まれる。必死で逃げ、川に飛び込んで、運よく船に救いあげられて助かる。船上から、火だるまの人

隊の最後』などで人気を博していた軍事記者の伊藤正徳の担当となり、日本中の戦争体験者の取材に基づいて、無署名ながら「人物太平洋戦争」を連載した。このときに歴史の当事者は嘘をつくことを学び、これらの経験が、「お前は『半藤』ではなく『反動』だ」と言われながらも、後に昭和の軍部を描いた作品を書く素地となったという。

1995年に文藝春秋を退社してからは、本格的に作家へと転身した。原子力発電所については人間の手に負えない危険なものとして懸念を表明し、太平洋戦争（大東亜戦争）当時の日本軍部（特に日本陸軍）及び靖国神社におけるA級戦犯の合祀については強く批判した。

晩年は護憲派としての活動を積極的に行っており、

「正義ある日本が絶対に勝つ」と大人に信じこまれた少年。戦争になると、おもちゃも新しい服も、白ごはんも、犬も猫も、動物園の象・熊・虎も、どんどんなくなる。疎開で、親や家族と離れ離れになり、敵の軍用機に追いつかれ、爆撃機に空襲されて、火の海の地獄に一人で投げ込まれる。必死で逃げ、川に飛び込んで、運よく船に救いあげられて助かる。船上から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人

社内で「太平洋戦争を勉

動を積極的に行っており、

から、火だるまの人

から、火だるまの人



## 世話人（◎代表者）

酒迎 天信

日本山妙法寺

日野 詢城

大谷派見成寺

林 正道◎

大谷派安養寺

古谷 聡

大谷派蓮照寺

佐々木淳二

大分メソナイトキリスト教会

掛橋 泰定

日蓮宗妙栄寺

大在 紀

本願寺派長光寺

野口 春夫

日本基督教団津久見教会

宗教者9条の会・大分 事務局

〒877-0012

日田市淡窓1丁目4-25

妙栄寺 TEL 0973-22-2245

年会費 3,000円

郵便振替口座 01720-1-111731

# 「音楽と講演」 主催「宗教者9条の会・大分」について

大分メノナイト・キリスト教会 佐々木淳二

3月7日、ホルトホール・大ホールにて「音楽と講演」を開催します。講師の芦名定道先生は京都大学教授です。神学者パウル・ティリツヒの研究者でもあります。

ティリツヒは第一次世界大戦に従軍牧師として戦場へ赴きます。そこで血と死体で満ちた塹壕を体験したのです。このとき彼はドイツから勲章を受けますが、神経をすり減らし倒れてしまいました。

1940年、ティリツヒはナチス政権を批判したためにドイツを追放され、アメリカへ亡命します。ユニオン大学で教鞭をとった後、ハーバード大学・シカゴ大学へ移られました。芦名先生は日本学術会議が推薦した会員候補の中で菅首相が任命を拒否した6名の内の一人です。なぜ任命を拒否したのか、首相は説明責任を果たさそうとはしません。それなのに自民党は日本学術会議

のあり方についての見直しを語り始めました。これまでに日本学術会議が歯止めを掛けていた軍事研究の見直しの検討を促していることが浮き彫りになってきました。

また講演に先立ち音楽もあります。演奏者は「カテリーナ古楽器研究所」の松本さんご家族です。松本さんご家族は、美しい田園の真ん中に立つ古民家で、日々、古楽器の研究と制作に励んでおられます。田を耕し野菜を作り、大地に根付いた優しい

音楽は私たちの心を必ずや癒してくれることでしょう。コロナウイルス感染防止にも努めます。お席は十分に用意しています。家族の方や友人の方々とお誘い合わせの上、ぜひいらしてください。

## 音楽と講演 平和憲法から現代を問う 一軍事研究の現状一

芦名先生は、日本学術会議が推薦した会員候補の中で、菅首相が任命を拒否した6名の内のお1人です。



講師：芦名 定道 (京都大学文学研究科教授)

＜プロフィール＞  
1956年、山形県新庄市生まれ。京都大学博士(文学)現在、京都大学文学部文学研究科・教授(キリスト教思想)  
著書、『ティリツヒと現代宗教』(1994年、北樹出版)『自然神学再考』(2007年、見洋書房)、『近代日本とキリスト教思想の可能性』(2016年、三才社)、『現代神学の冒険 新しい海図を求めて』(2020年、新教出版社) など。



## 自然から音をつくる 音楽：カテリーナ古楽器研究所

1972年より松本お徳が東京にて工房を開拓。ヨーロッパ中世・ルネサンス期の古楽器復元・研究が始まる。チェンバロをはじめ、管弦打楽器を製作し古楽器の世界を築いてきた。国立民族学博物館の調査員としてアジアの伝統音楽のフィールドワークを行うなど、世界の音楽、楽器の調査に積極的に関わりのほか、BS・TV/FM等で楽器の解説を行う。1991年、大分県に拠点を移し、2003年より親子二代で作る音楽家は、新巻を広げている。各地でワークショップ・展示・講演・コンサートを開催。2018年より2代目松本未来が主宰する。

LP「古来の調べ」、(CRSユニコーン)・書籍「ようこそきづくり楽器の世界へ」(TBSブリタニカ)・CD「中世派礼拝曲」(CSF)・教材「音楽の基本ワーク」(新学舎)

日時：2021 3月7日(日)  
会場：ホルトホール大分 大ホール  
大分市金池1-5-1 ☎097-576-7555



主催：宗教者9条の会・大分 代表：林正道 (東京大学名誉教授) 共催：憲法9条キヤンペーン 代表：岡村正洋 (財団長) 共催：平和のための戦争観10大分 代表：森川美菜 (大分大学名誉教授) お問い合わせ先：大分メノナイト・キリスト教会 牧師 佐々木淳二 TEL:097-556-7961 〒870-0001 大分市金池1-5-1 ☎097-576-7555

【コロナウイルス感染防止のためのお願い】ご来場の際はマスクの着用をお願いします。入口に消毒液を設置していますので、手洗いの消毒をお願いします。お席は十分に確保しています。お席の間と距離を取ってお入りください。

### 編集後記

菅首相が「ガースー」などどふざけている間に、無為無策のまま新しい年を迎えたが、新型コロナウイルスは、ますます猛威を振るっている。秋には否応もなく衆議院選挙を迎えるが、菅さんには1日も早く辞めさせたい。そのためにも、市民の野党の共闘を広げ、野党連合政権への展望が切り開かれることを、何よりも切望している、今日この頃である。(H)